

〔論文〕

内村鑑三とユダヤ人ニューマーク

黒 川 知 文

〈目 次〉 はじめに

1. 再臨運動の概況

2. 大阪大会の成功

3. ニューマークの証詞

4. その後のニューマーク

おわりに

はじめに

大正時代の半ばに日本において大都市を中心に再臨運動が展開した。これは歴史の終わりの患難期にイエス・キリストが再びこの世に来ることを待望するキリスト教の運動である。2年間にわたる再臨運動において、ユダヤ人ヘルマン・ニューマークの証詞が、特に内村鑑三によって重用された。ニューマークはどのような証詞をして再臨運動に参加したのであろうか。ニューマークに関する研究は未開拓であり、同時代に出版された雑誌を史料として考察したい⁽¹⁾。まず再臨運動の概略を理解して、ニューマークの果たした役割、証詞の内容と彼のその後の活動を見る。

1. 再臨運動の概況

再臨運動は、1918年1月6日午後2時に東京基督教青年会館において内村鑑三、中田重治、木村清松による聖書の預言的研究演説会として開始され、当初から講演会には平均1200名を超える聴衆があった。多くの聴衆が講演会に集った背景は以下の様に考えられる。

第1に、1917年に全国協同伝道が終わった直後に再臨運動が開始されたことが挙げられる。聴衆にとって再臨運動は全国協同伝道の延長として受け止められたので講演会に抵抗なく出席したと考えられる。

第2に、第一次世界大戦とスペイン風邪の流行、経済的恐慌という危機的な時代状況が前千年王国論によるイエスの再臨前の状況にほぼ合致していたことが指摘される。

これら以外に、大正デモクラシーの思想表現における自由な状況が背景にあったので、自由に講演会を開くことが出来たこと、さらに、「角筈の隠者」として世間から隠れるようにして活動していた内村鑑三が、一変して日本社

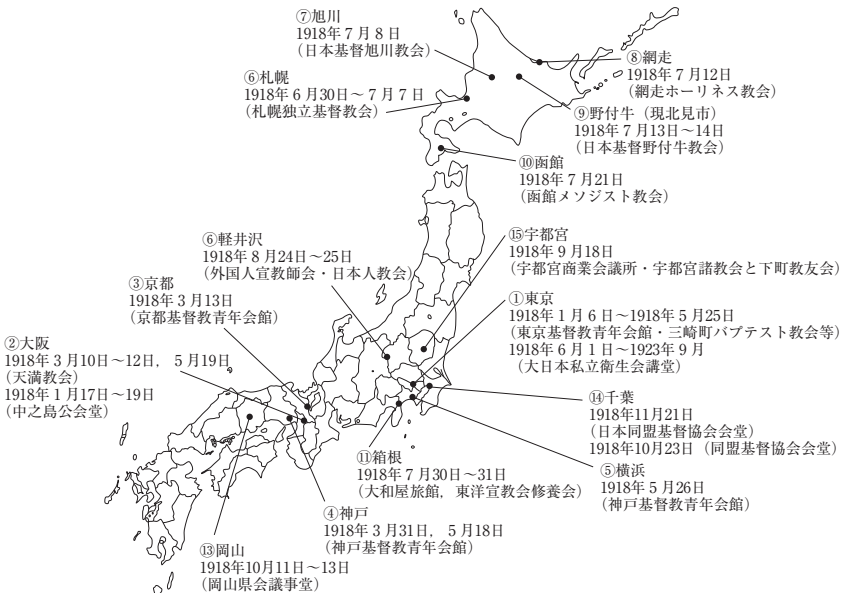
会の前面に現れ語りだしたことも大衆の興味を惹いた背景にあったと考えられる。

再臨運動はその後、北海道、岡山、京阪神等の地方都市にも展開された。（地図を参照）

再臨運動の性格としては、第1に説教運動であったことが指摘される。再臨運動は内村鑑三と中田重治を中心として多くの牧師や信徒が説教を行い、慈善活動や社会活動を一切ともなわない運動であった。



写真1 再臨運動を開始した3人
左から中田重治、内村鑑三、木村清松 1918年2月大阪にて



地図：再臨運動開催地 内村による再臨に関する講演地と期間を時系列的に番号で示した

時期名と期間	展開した場所	主な出来事
準備期 1917.5-12	東京	大戦景気始まる1915後半 宗教改革四百年記念講演1917.10 ホーリネス教会設立1917.10 ロシア革命・バルフォア宣言1917.11 英軍エルサレム入場1917.12
開始・高揚期 1918.1-5	東京・大阪・京都・神戸・横浜	スペイン風邪世界各地で流行1918.3-10 日本基督教希望団設立1918.3 スペイン風邪日本に流行1918.9-1919.4
対抗・充実期 1918.6-11	東京・北海道・神奈川・岡山	柏木兄弟団の設立1918.6 米騒動1918.7-9 シベリア出兵1918.8 基督再臨問題講演会1918.6 平信徒信仰革正会設立1918.6
対抗・沈静期 1918.12-1919.5	東京・大阪	基督再臨研究大阪大会1919.1 ユダヤ人問題研究会1919.2 東京基督教青年会館借用拒絶事件1919.5
衰退・転換期 1919.6-	東京	3.1事件1919.3 私立衛生会講堂に移転1919.6 ヴェルサイユ条約調印1919.6

表 1 再臨運動の時期区分

第2に、再臨運動は、超教派運動として開始された。具体的には、東洋宣教会ホーリネス教会と無教会を中心に、日本伝道隊、聖公会、日本基督教会、日本福音教会、メソジスト教会、大阪天満教会、プリマス・ブラズレンなどが参加した。

再臨運動はその進展状況から、以下の五時期に区分される。すなわち、準備期、開始・高揚期、対抗・充実期、対抗・沈静期、衰退・転換期である。（表1を参照）

2. 大阪大会の成功

1918年11月11日に第一次世界大戦が終結した。これを契機として再臨運動

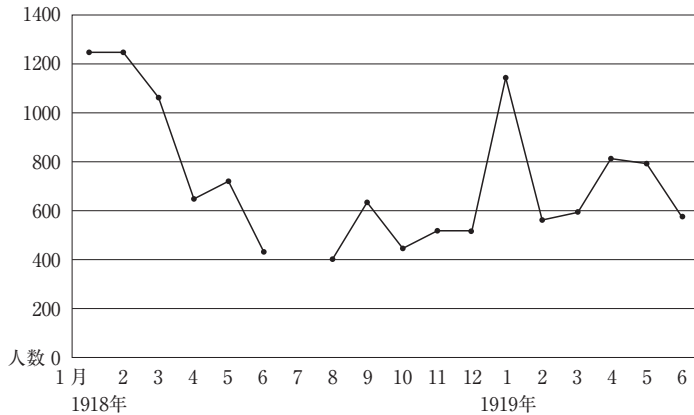


表2 再臨運動参加者数（月別の1講演会平均参加者数）

は1919年5月の東京基督教青年会館借用拒絶事件まで、対抗・沈静期を迎える。

月別の1講演会の平均参加者数を見ると、1919年1月は対抗・沈静期であるが、参加者数が出ていることがわかる。（表2を参照）

これは、大阪大会の成果によると考えられる。

基督教再臨研究大阪大会は1919年1月17日から3日間、中之島公会堂において開催された。

第1日目の昼の会における証詞者は平出慶一、藤井武等四人、講演者は中田重治で参加者は1000人余もあった。夜の会では証詞と宣教師コルテスの講演の後に「万民に関はる大なる福音」と題して内村が講演した。以下のように内村は日記に記している。

此夜来り会する者16,700人、其半数以上は確に未信者であった、然れども彼等は水を打ちたるが如き静粛を以て余の言はんと欲せし所に耳を傾けて呉れた、大なる感謝である、我等は第1日に勝利を博してハレルヤの声を揚げた。⁽²⁾

未信者の参加により参加者は増大した。第2日目の昼の会1000人、夜の会

1800人の参加があり、最終日には、再臨運動において最多参加者数である2300人を記録した。これは、3500人に招待状を送り、新聞広告や交差点でのポスター等の手段が功を奏したとも考えられる。内村はこの日「恩恵溢るゝ会合であった」と記した。

内村は、17日の夜の会において、「万民に關はる大なる福音」と題して以下の内容の講演をした。



写真 2 大阪市中央公会堂（旧中之島公会堂）

基督者に次いで猶太人が来る、基督者は天に属ける者、故に地に属けるすべての民よりも神の目の前に貴くある、然れども地に属けるすべてのの中に猶太人は最も貴くある、猶太人は神の「宝の民」又「聖き民」、「エホバ汝の名誉と声聞と栄耀とをして其造れる諸の国の人に勝らしめ給はん」とモーセが言ひし民である（申命記27章19節）而してキリストの再臨に由りて猶太人は此名誉、此栄耀に与るのである。神は猶太人を棄て給はない、其約束に従ひ再び彼等を見舞ひ、彼等を以て彼の心に定め給ひし事を世に行ひ給ふ、（以下傍線内村）即ち律法はシオンより出、エホバの言はエルサレムより出、彼れ其選民を以て諸々の国の間を革き給ふ其時が至るのである、キリストは再び地上に現はれエルサレムを中心として世界を統治め給ふとは聖書の明かに示す所である、ゼカリヤ書14章4-9節、エレミヤ書3章17節…「其時には」彼の足エルサレムの東に当る橄欖山の上に立たん時には、エルサレムは世界の都

となり、選民ここに其王を奉じて万国の民を治むるであらう、人は此事を聞いて空想なりと言ひて笑ふであらう、然し乍ら是れ聖書の明かに示す所、其一点一画までが事実となりて現はるるまでは止まないものである、猶太民族は今猶ほ厳然として残って居るではない乎、世界孰れの民か彼等の如くに天賦の才能に富み強健にして有為である乎、猶太人は四千年の光輝ある歴史を有し而してキリストの再臨は基督者の永世の希望を充たすと同時に又猶太人の此希望を充たす者である、空中に於て栄化せる信者を接給ふキリストは猶太人の間に臨み、ダビデの位に坐し、彼等を治め給ひ又彼等を以て世界を治め給ふのである…基督者はキリストと共に世を治めんがために恵まるのである、猶太人はメシヤの配下に異邦人を治めんがために恵まるのである、而して異邦人は彼等の救はるるに由り栄光の父なる神の帰せんがために恵まるるのである。⁽³⁾

内村は、ユダヤ人は異邦人の救いが完成した後に、救われ、キリストの再臨があると講じている。内村の講演は、ユダヤ人ニューマーク（内村表記ニユマク）の証詞により、来会者の支持を得た。

この基督再臨研究大阪大会に参加した青木庄蔵は、「関西再臨大会に就きての感想」と題して、以下の様に、ニューマークの証詞が予想を越えて会衆に感動を喜びを与えたと記している。

…而して是が講師としては東京より内村・中田・平出・藤井の各先生、下関よりコルテス先生ユダヤ人ニユマク君其他中国九州等各地方の教役者諸兄弟並に吾々50有余名の発起者は想外の盛会裡に是を閉づる事を得て皆々満腔の喜を以て親睦会を大阪ホテルに催し互に堪へざる感謝と前途使命の益々重且大なるを感じ、溢るる許りの歓びを以て散会したる次第なり。⁽⁴⁾

青木も記したように、大阪大会の成功には、ニューマークの証詞が大きく寄与したことがわかる。

翌日、内村は日記にユダヤ人ニューマークについて以下の様に記している。

1919年1月18日（土）好晴

午前、公会堂の2階に、ひとり静かなる時を持った。午後2時、開会。来聴者千余。石川鉄雄、藤本寿作、ユダヤ人ニューマク、藤井武の諸氏と共に講壇に立つ。ニューマク氏の演説ことに有力であった。若きタルソのパウロがわれらの前に立ちしように感じた。言葉は簡潔で、辞々力あり、まことにユダヤ式の有力なる証詞であった。かくのごとくにして、ユダヤ人がクリスチャンとなりし時に、最も有力なる伝道師が現わるるのである。「もし彼らの罪過、世の富となり、その衰え、異邦人の富とならんには、まして彼らの盛んなるにおいてをや」（ロマ書11：12）とのパウロの言を思い出さざるを得なかった。会衆一同の感動はなほだしく、直ちに寄附金を募り、ユダヤ人伝道の資に供せんと諮りしに、一同これに応じ、102円余の献金ありたれば、これをニューマク氏の手へ渡し、彼の同胞間における福音宣伝の志に対し、いささかの同情の意を發した。余はこの日、昨日の続きを演じ、キリスト再臨の証明として、第一に聖書、第二にユダヤ人の歴史、ならびにパレスチナの地理について述べた。5時ひとまず閉会。7時再会。黒崎、森、河辺、中田、森本諸氏の証詞があった。来会者1800余。但し、中には新築の公会堂見物のために入りし者もあったらしく、出入り頻繁にして、少なからず会の厳肅を妨げた。また講演者の間にも多少の思想の相違もあり、少しく歩調の乱るる観があった。⁽⁵⁾やむを得ない。さらに祈るまでである。10時閉会。

内村は、ニューマクを使徒パウロに匹敵する者として、彼の「有力なる証詞」に感銘を覚えたことがわかる。なぜなら、ユダヤ人の救いは、イエスの再臨の前に成就するべき預言の一つであるからだ。キリスト教に改宗したユダヤ人ニューマクが証詞したことは、内村の説教の内容にも合致し、「生きた聖書の預言の成就」の見本であった。「会衆一同の感動はなほだしく」とあるように会衆も感動して、寄附金102円（推定数十万円）を集めてニューマクに福音宣教のために渡している。



写真3 1919年1月17日、基督再臨研究大阪大会（中之島の市公会堂にて）津山基督教図書館蔵 前列左から6番目以降が内村鑑三と中田重治，その背後にニューマーク（推定）

3. ニューマークの証詞

1919年2月5日、三崎町バプテスト教会においてユダヤ人問題研究会が開催された。これは再臨運動の一部であり、日本においてユダヤ人問題を扱う最初の学術的な会議であり、ユダヤ人を学問的に正しく理解して友好関係を築こうとする会議であった。参加者も多く、主にキリスト教の信徒や牧師、神学教師から成立していた。

ニューマークは、英国ロンドンに生まれたユダヤ人であり、「数年前神戸に於て救はれ驚くべき^{あかし}証詞を有^をって居る人」である。「此度^{こんど}英國に帰りてユダヤ人に傳道^{でんどう}せんとして既に英國に向って出發^{しゅっぱつ}された」と紹介されて、以下の

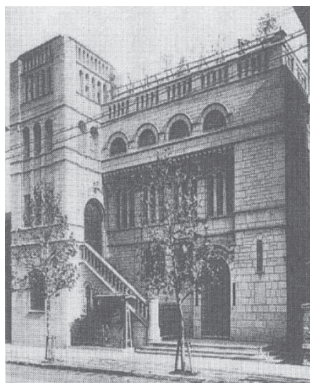


写真 4 三崎町バプテスト教会
(1916年献堂)

様に、ユダヤ教からキリスト教に改宗した証詞をしている。以下がニューマークの証詞の内容である。

出生

私は英國のロンドンに生まれたユダヤ人です。今より六年前日本に参りました。私は信仰に入らざる前には一般ユダヤ人の如く主イエス、キリストを反逆者と目し舊新約聖書は奇怪なる物語をもて充たされたるものと思つて居りました。私は以前とて人格者なる神が天に在し給ふ事を信じませんでした。又

私はユダヤ人以外の者は皆クリスチャンだと思つて居りました。私は自分の周囲にある英國人の信者を見てかくの如き教には決して入ら無いと決心して居ました。私の兄弟は10人ありますがその中の1人は私の如く六年前日本に來た事がありました。私はユダヤ教の必要すら感ぜず、勿論食事の時には感謝すらもしやうと思ひませんでした。米國には330萬のユダヤ人が居りますが皆私と同じ思想を有つて居ると思ひます。(以下傍線ニューマーク) 私は日本に在りて5年金儲の外何も心にありませんでした。私は兄弟と2人で安らかに過して居りましたが兄弟は戦争の爲に帰英し、私は只一人神戸に留り、神戸の某會社に奉職して居ました。

神を求む

兄弟と2人の時分には蓄音機などを楽しみとして居ましたが、1人となつては靜かなる讀書に慰安を求めました。私はある時一冊の書物を手にしました。そして其書は私をして神を探し求めしめました。私は神は如何なる御方なるかと考へ始めました。私は先きに聖書は奇怪なる書とのみ思ひ居たりしも此時になつて此れに由りて神を知らんといたしました。私は宿の主婦から聖書を借り、何處へ行くにもこれを携へ、遂に全巻を通讀いたしました。此處に至つて從來の偏見は全く除かれ神の事、人の事を多く學び得ました。そして人間は罪人である、此有様より救はるゝ途は只主に由る事を示されました。

しかし私は未だイエスはキリストなりとの信仰に達する事ができませんでした。

救

續いて私は新約聖書を読み始め、マラキ書に録されたる恐ろしき神の詛もイエス、キリストに由て除かるゝ事を知り其場に於て直ちに主イエス、キリストを受け入れ神との和を得ました。若し英國人が信者となる時には牧師は彼の肩に手をかけて善き子よと喜びますが、ユダヤ人はそれと反対に人殺しよりも更に悪しき人間として取扱はれます。私も路傍に於てユダヤ人が證を爲しつゝあるを見る時には悪感情を抱き見向きもいたしませんでした。しかし私は自分の信仰に入つた事を手紙をもって家族に告白いたしました。此時私は神より眞の平和と喜びとを與へられました。

迫害

私の兄弟は結婚後再び日本に参りました。私はある時兄弟と道を行く際兄弟に向つて信仰の告白をいたしました。彼は見る間に顔色を変へて怒りました。そして翌日手紙を渡しに送つて最早断然絶交する故汝の汚れたる金をも送る勿れといふて来ました。私と兄弟とは眞實に相愛して居りました。それ故に此事はどの位私に大なる憂と悲しみとを與へたか分かりませんでした。

私は直ちに返書を認めて『私を救ひ給ふたのは基督であります。彼こそは我儕の救主であります。卿等が私を棄つるとも神の愛は決して私を忘れません。肉身としては此上無き苦痛なれど詮方ありません。』と書送りました。故國の母は3日間泣き續け『私の可愛い子供はクリスチャンになった』と嘆きました。又他の兄弟も私に信仰を棄てよと申しました。

諸君よ、迫害は幸福な事です。只主のみが平和を私共に與へ給ひます、主は救主です。凡ての人が主を棄つるとも主は私を棄て給ひません。主こそ我が凡ての凡、主こそ讃美すべき御方です。私の弟は餘りに慘酷なる書状を故國の家族に送つたので家族は反つて彼を喜ばざる様になりました。以後私は弟と一切の關係を断ち又両親、親友とも2年1ヶ月間少しも返書を受けた事はありません。

受洗と傳道

私は神戸の海岸で受洗いたしました。當日弟は此事を聞いて非常に怒りまし

たが、此日は私に取りては救を全世界に證した記念すべき日でありました。それより私は個人に證詞を爲し、小冊子を以て傳道し、主は我が救主なりと叫びました。勿論これには多くの迫害が伴ひました。私は尚進んで自分の證詞を印刷に附して日本にある外人に傳道いたしました。しかし私は今帰國せん事を願つて居ります。私はかつて嘲笑の眼をもて路傍に證せし人を見たる其街路で勇ましく證せんと決心いたしました。

きよめ^{きよ}の經驗^{けいけん}

私はヨハネ第1書の1章9節の『若し自れの罪を認さば神は誠實なる正義者なれば必ず我儕の罪を赦し凡ての不義より我儕を潔むべし』との聖言に由りて罪を赦されたけれども、自分の心にある罪を思ふ時に他人の爲に禱告するなどは思ひもよらず、又日毎の失敗の生涯を思ふ時に苦痛甚だしく、主に助けられて善事を爲さんとして居りました。しかし神は私に『凡ての事は主に由りてのみ爲し得らるゝものである』と教へて下さいました。私は一切を主にまかせ、主は私の心の汚れを潔め聖靈に由りて全く私を充たし、自由なる者と爲し給ひました。主が凡ての不義より潔め給ふならば私に罪がある筈はありません。私に取つては生けるは唯基督のみです。私は此世の財に心を止むべからざる事を教へられて収入の十分の一の献金を始めました。又神の國と其義しさを求むる者に主は一切の必要を充たし給ふ事を信じ銀行に預けたる貯金の全部を献金いたしました。そして300圓の月給中80圓にて生活し他の220圓を全部神に獻ぐる事にいたしました。

いやし^{いやし}の經驗^{じつげん}

私は二年前に『義しき者の篤き祈は病める者を救ふべし』との聖言によりて勵まされて神に癒を求めました。私は六か月間醫藥に由りて癒されんと試みました。私は此聖句に由りて勵まされ眼病を神に持行き2か月後に驚くべき神癒を経験し神に感謝いたしました。これよりは癒しのみならず、健康をも神に由りて得る様になりました。

再臨の信仰

私は救はれてから聖書を七回通讀いたしました。それ故私は決して部分的の事を申しません。今やユダヤ人はパレスタインを指して帰國しつゝあります。これ即ち聖書の預言の成就しつゝある事實です。しかしユダヤ人は此事に氣

附^づかず^に居ります。英國は今やユダヤ人^{パレスチナ}を聖地^{かえ}に送^{このうち}り還^{いつ}しつゝあります。此中^いには信者も、マホメット教徒も、偶像信者もあります。主の空中再臨は何時あるか私には其時^{そのじ}日は分^{じつ}かりません。しかし其時^{そのとき}には花嫁たる信者は携^{たづ}へ舉^{あげ}られ偽^{にせ}基督の出現した後地上に降臨し給ひます。今日多くのユダヤ人が帰國しつゝ、あるけれども彼等は大患難^{だいくわんなん}に遭^あはんために帰國しつゝ、ある様なものであります。しかし今救はれ居る我儕は空中に携^をへられ此患難^{この}を免^{まぬか}るゝ事が能^できる。然る後にユダヤ人は國民としては救はるゝ事が能^できる。諸君は彼等に傳道は能きぬが彼等のために祈る事が能^できる。これは神の喜び給ふ事である。諸君が救はれたのはユダヤ人に由りて救はれたのである。キリストも12使徒も皆ユダヤ人である。それ故にユダヤ人が救はるゝ事は大切な事である。⁽⁶⁾

ニューマークは、キリスト教に偏見を持つ神もユダヤ教を信じない英国のユダヤ人家庭に育った。10人兄弟の家族で2人が日本に来ていた。神戸で働いていたが、個人的に新約聖書を含めた聖書全巻を読むことにより、偏見がなくなりキリスト信仰の決心をした。救いのあかしをするニューマークに対して、ユダヤ人の家族や友人は、怒り、絶交、悲しみで応えた。ユダヤ人としては当然の応答である。一般的にユダヤ人はイエスを「反逆者」さらに「問題ある人物」「事故を神とした冒涇者」「魔術使い」等と見ており、新約聖書は禁書としている。彼も、旧新約聖書は「奇怪なる書物」と思っていた。また食膳の感謝の祈りもしていなかった。

ユダヤ人がキリスト教徒になれば、ユダヤ人から多大な反感をもって応答されたことが分かる。母は3日間泣き続け、他の兄弟もニューマークにキリスト教を捨てることを勧めた。ついには家族から絶交を言い渡され、家族への日本からの彼の送金も拒絶された。

このような苦しみにあってもニューマークには「神よりの真の平和と喜び」が与えられていた。ニューマークは明らかに、信仰を持ち、救われていたことがわかる。彼は救われた喜びをもって、聖書の教えを伝え、給料の大半を献金にした。

さらに重要なことは、ニューマークが2か月間の祈りにより眼病が治癒し

たという「神癒」の体験をしたことである。「神癒」は「神聖」「聖化」「再臨」とともに中田重治により掲げられたホーリネス教会の「四重の福音」の要素をなす。中田の主導するホーリネス運動にも大きな影響を与えたと考えられる。ニューマークの証詞や書簡は『聖潔之友』に全文掲載されたからである。またユダヤ人の救いを神に祈り求めている。

2月5日のユダヤ人問題研究会に出席した内村は、同日の日記に以下の様に記している。

2月5日（水）晴

寒気強し。半日を校正に、半日を読書に費やした。夜、三崎町バプチスト会館において、神戸在留の英国ユダヤ人ニューマーク氏を招き、ユダヤ人問題研究会が催された。（以下傍線内村）来会者、堂に満ち、六百人もあったろう。中田重治君主会し、次いでニューマーク氏の2時間余にわたる談話的講演があり、大いに教えらるるところがあった。最後に、余もまた30分間ほど、余のユダヤ人観について述べた。ユダヤ人と日本人とは、その骨組において、類似するところ多し、ゆえに、ユダヤ人によりて創始められしキリスト教は、欧米人によりてよりは、日本人によりて、より、たやすく、かつ、より深く解せらるるとの意見を述べた。但し咽喉いまだ平常のごとくならず、ことに夜氣に⁽⁷⁾触れて、語るに困難を感じ、すこぶる苦しき演説であった。

内村鑑三は、ニューマークの2時間以上にわたる証詞の後に、ユダヤ人観について説教した。ニューマークの証詞は大きな効果があったと考えられる。

この研究会の席上、内村が「ユダヤ人と日本人とは、その骨組において、類似するところ多し」と両者の類似性を言及した。この内村の言葉が、以後展開される中田の独特な日猶同祖論に影響したと推定される。

ユダヤ人問題研究会は同年12月7日にも開催されて、中田が講演して、英国のキリスト教伝道本部にユダヤ人伝道のための献金を送っている。これはニューマークがすでに英国に帰国しており、ニューマークの伝道活動を支援するための献金であったと推定される。内村の日記には以下の記述がある。

12月7日（日）晴

昨夜大雨，今朝に至って晴る．またまた感謝の声をあげた．午後の集会，普通以上の盛会であった．中田重治君に，ユダヤ人について話してもらった．
そうしてユダヤ人伝道のために喜捨金を募りしに，57円を得たれば，これを
中田君に託して，在ロンドン伝道本部に送ってもらうことにして，うれしか
った⁽⁸⁾

さらにユダヤ人問題研究会は12月11日にも，中田の柏木聖書学院において開催された．これは，再臨運動を継続する活動であると内村は日記で以下のように述べている．

12月11日（木）晴

夜，近隣の柏木聖書学院の講堂において，ユダヤ人問題研究講演会を開いた．
 市中より来たり会する者，四百余人．盛会であった．車田，藤井の二氏ならびにワイドナー女史と高壇を共にした．余はコリント前書十五章八節「月足らぬ者」Ektroma なる詞の意味について語った．この会合は，今年の再臨運動の継続として見るべきものである．そうして再臨の信仰に対する攻撃，反対の激烈なるにかかわらず，その，ますます広くかつ深く信ぜられつつある
 ことが，この会合によって証明された．デモクラシー，改造運動と，この世の主張は次へ次へと変わり行くに対して，神の真理の年と共に移らざることが証明されて，愉快であつた⁽⁹⁾．

ニューマークの証詞はユダヤ人問題研究会においても重用されたことがわかる．

4. その後のニューマーク

ニューマークは神戸の海岸で洗礼を受け，2年後に日本を去った．帰国の途中，米国のサンフランシスコやオレゴン，シカゴ，ピッツバーグ，フィラデルフィア，ニューヨーク等の地においてキリスト教宣教団体と協力して活動し，1919年8月には故国である英国のロンドンに帰った．

ニューマークは、同年8月11日に、英国のロンドン市クリックルウッド街77番から以下の内容の書簡を送っている。

我が靈魂の愛しまつり、待望み且其の來り給ふを見守る所の主に在る敬愛する兄弟姉妹よ。兄弟等は確かに此より以前小生よりの便をお待ち被下し事と存申候、然と小生は故意に倫敦（我が第一誕生地）到着迄で延期致したるものに御座候、而して同所に暫時假寓致居候。

我が旅行記は若し主の完全に小生を我が兩親兄弟の許に送り給ひしを含まずば全からざるものに候、小生は今當地に於ける目下の境遇をば2、3記し能ふ故に諸兄姉は小生と共に、我が肉に依る親しき人々の救拯の爲め如何にせば「祈の助人」となり得べきかを知らるる事と存じ候。小生2月3日神戸を去り、今月7日漸く當地へ到着致候。（以下傍線ニューマーク）此の6か月間に主は日毎前例になき悪の雨をば賜ひ、實際主は初に優ることを爲し賜ひて、斷へず彼の限なき恩寵を積み重ね被下候。

諸兄姉と共に我儕の類無き主イエスの驚くべき御愛を讃め歌はん爲め、神様のお處置と導とを概略可申上候。主の聖名こそ實に天にも地にも樂きものに候。小生には今日此頃以前にも増して樂く存ぜられ候——特に小生去る2、3日前より、主は私の爲め御忍耐強くも負ひ給ひし嘲笑と憎惡の幾分かを味ふ特權を與へられ居る故に候。

『彼己の國に來しに其民これを接ざりき』

小生の度々、私を支へ保つ爲め彼のあらゆる恵を要すを言ひし如く、私は次の如く證し得る者に候。

（1）彼の恵足れり。（2）彼はより優る恵みを賜ふ。（3）恵みを受けしめよ。我儕進んで恩寵を受けん。其の源は無限にして世に滿てる幾億の貧しき罪人の爲め不足を知らざるものに候。海には其の限りあれど、神様の恩寵は無限にして測り知る能ざるものに候。實際亦斷へず洪大に廣がりつつあるものと見受けられ候。

主は過去23年間嘗つて一寸だも神様を想はず弄せし事のなき小生を選び、2月5日東京の代表的信者の前に主の僕に行し給へる驚くべき恩寵、又賤しみ惑されたるイスラエル人に對する神の御計畫をば話す爲め立たしめ被下候。

神の小生を導き給ふ處必ず聖靈働き給ひ、まゝ常ならず、豫期せざる方法を以てせらるゝ事も有之候しかど何時も何人かを恵まん爲にて候へき。

神は罪を犯さざる天使よりも寧ろ、蟲、塵灰に過ぎざる小生如き者を、功なくして得らるゝ榮光ある救拯の福音宣傳に撰び給ひしを想ふ毎に斷へず謙遜らざるを得ざるものに候。——カルバリー山上十字架にかゝり寶血を流し賜ひし羔により、永遠に萬事等しく贖はれ、價は既に拂はれたるものに候。

東京出發前語學校に於て約40名計の若い宣教師達に小生の證詞をする特權を與へられ、折好き奨勵の言葉を以て日本人に聖い純福音を説くことを得、尚50名程の大學生（慶應）にも證致候。横濱桑港間は2月12日より3月1日迄を要し。2月12日の日記に記せし小生の聖言は『我が恵なんちに足れり。』にて候。此の聖句たるや旅行中幾度となく小生の胸中に感銘せし故、我が心中に文字通りに焼付けらるゝに至り候。而て我が倫敦着早々其の聖句の必要を感じ申候。

船仲間もなく「神の聖徒達」と知合ひ、毎日祈祷、聖書研究、交情等を持ち各自の靈魂大いに啓迪せられ候。主イエスの證詞を致す機會は少かりしかど、勿論我等の静かな、わかたれし者の生涯は、我等に現世の快樂、娛樂等に依らず満足あると言ふ事實に對する無言の證詞に候。主は船中一人の日本人の兄弟を備え給ふて、吾等は幾百の下等先客の爲め福音を傳ふことを得申候。彼等は悉く日本人に候へき。

サイベリヤ丸は優等な船に候て航海は總て點に於て實に言い分なしに候。我等のホノル、在泊が餘りに短かりしかば一人の主の民をも訪れ得ず残念に候。桑港に着や否や小生はオークランド・ハイツ・ビューなるカリー・ジヤド・モンドゴマリー姉の『平和の家庭』を訪れ、其處に二週間滞在し、主と其の民とに依り新しくせられ候。又最も愛すべき聖徒達に遭ひ益々深き友と相成申候。日本に在る兄姉等の親戚、知人を訪問するの幸を持ち、私が主キリスト様の證詞を爲しつゝある内にも新しき友を得申候。

オークランドにてはイスラエル人の爲め月毎の素晴らしい祈祷會あり、3月11日には小生其處に證詞を立つ機會を得申候。

旅行中あらゆる種類の人に遭ひ、千年期後再臨を信ずる聖潔派の傳道師より不信神なる猶太人及びモルモン教徒（多妻教徒）に至るまで、其の人達との

會話は、肉慾心普遍性を示す處のものにて面白く存ぜられ候。(バツテマン氏の『何處の鴉も黒い』にはあらざれど、『全世界の人心は黒い、一人だに其をば雪よりも白くせられん爲に貴き主クリストの潔の血潮を要せざるなし』と小生は聖書の權威を以て主張し能ふ者に候。聖ヨセフ寺院に於て知人と友情を暖め有益なる一週間を持ち、其處にて小生名ある大きな會合に臨み多くの若い民に話す好機會を得申候。一番世俗の勝ちたる處にて、牧者自身さへ怪しき者なれば彼等が如何に小生を迎へしかは、只神様のみ御承知のこと、存ぜられ候。其所にて小生其時に至るまで覺えざる自由を以て完き自由の救拯を證致候。

聖靈は驚くべき『神の聖手』を動かし僅計りの猶太人を導き給被下候。米國の最も不振の集會にも小生数名の主に誠實なる者を見受申候。されば欺る人々には慰安の聖言も與へ得る者に候。實際バールの前にひざまづかざる者は七千(澤山)有之候。然れど悲しむ可きは大抵の教會員の、主の具体的再臨、又はイスラエル民族の復興及び將來等に関する無智に御座候。とは雖も何處にも飢たる靈魂はあり、彼等の求めて止まざる處のものは頭の教にあらずして聖書の教に候。

途中2、3訪問し、シカゴに着し、其處に4月4日より6月16日迄で客或は手助人として、シカゴ・ヘブル・ミッションに滞在致候。小生實に恵まれし時を其市に過し、初めて猶太人ミッションの爲め種々なる働をなすことを得、此處彼處と主の民等の爲に話致候。待もふけざる方、或は場所に豊なる導あり主の爲め『かへがたき實』(猶太人譯者)の證詞を致候。其の結果小生は數多の祈の助人を後に残りたるものに候。澤山の人が以前に見られざる程イスラエル人を諒解し、聖靈により受けし新しき妙味もて聖書を読み居候。『榮光皆主にのみあれ』數日デトロイト・バツトルクリーク・トロント等に知人を訪ね、其處に小さき猶太人の働を見申候。

特別シカゴにては大委員祈禱同盟(The Great Commission Prayer League)と親しき交情を結び申候。該同盟とは元より通信又は小生の左の如き2冊の新しき、チラシを發行する可き導きを與へ被下候。『東洋に於ける一英人の嘉悦』『百發百中の唯一の醫士』私は主の導き書を御祈り被下し様切望致す者に候。

ピッツバーグなるルベン氏の家庭に楽しき一週間を、尚 1 週間をばヒラデルヒヤの聖書學舎に主に在る友情を新にしつゝ送申候。米國にて最後に訪れし市はニューヨークに候て、7 月一杯滞在し其處にも同じく導豊紐育よりリバプール間の航海中印度に行く途中の傳道者數名と一緒に、日曜の晩には中等の食堂にて總ての人々に我が證を致候。若い二人の子供を持つた宣教師の爲め米國に在る聖徒達の祈に答へ給ふて、主は 9 日間静かな海を與へ賜ひ候。實際船が一寸も搖ざる故に誰しも船酔に侵されずと言ひし程みて候。

聖徒達は總ての點に於いて親切に候。小生神に彼等の爲め、又私を其の信仰の内に覚えし、主の小生を通して大なる働をせられんことを求め下さる、日本、朝鮮、支那に在る友の爲にも讃美を捧申候。

願は何日迄も小生、聖徒を起し啓迪せん爲め流出づる聖靈の嘉き金の器たらんことを。諸兄姉よ、何卒左の諸件につき私と共に御祈り被下度候。

- (1) イスラエル全家に恵豊かに聖靈の一般的傾注、而して『恵の撰に漏れし殘者』速かに集られ、主を迎へん事。
- (2) 日本、米國に蒔かれたる福音の種悉く實を結ばん事。
- (3) 英國に於ける猶太人、異邦人、神の教會に證する導あらん事。
- (4) 倫敦に在る私の家族を何日迄で共にあるべきか？
- (5) 何日より何處に主の爲の我が生涯の働を爲す可きか？
- (6) 私の全家族の主キリストに對する速かなる決斷。
- (7) 世界傳道及びキリストに依るリヴァイヴルの爲め其後の祈祷同盟に最も有益にして、彼等が財政も傳道者も靈的にも總ての必要滿されん事。
- (8) 日本人信者間に起りしイスラエル民族の爲の祈祷會益々擴張せられ、神の聖旨の其の中になされん事。

小生家に歸り懇切なる歡迎を受申候、勿論小生とても其に深く感じ申候へども、近頃良く感ずる事に候得共如何に境遇の變化せしかは到底言葉に盡し難く候。小生現世のものならざる事は餘りに明か過ぐる程に確實なるものと存ぜられ候。

間もあらず我等の靈魂の敵は、主キリスト及び我が内住の主に對する非常なる憎惡となり現はれ、暫くは家庭が互に別れる事に相成候。——大半は、主と共にあらざれど我が味方に候。

日本を去る時より斷へず持ち來りし『只愛のみ』の標語も昨晚底意地悪くも引剥き取られ候、されど勿論主は常に我が内に彼の愛を示し被下故に、小生只主の御足の下にひれ伏し居る時は、其の愛働き出し被下候、否働き出んとし居るものに候。

小生は目下非常なる試の下に有之候得共、主が小生の聖書及び教書外あらゆる私に屬するものを守り給ふのみにあらず、諸君と共に永く立ち來し使徒行傳16章30節の速かに成就せられん事を信じ居る者に候。

迫害甚だしく我等に不利に候、さりながら神に能ざる事無く候。

小生は此の者の如き回章を定期に發行する必要があること、存じ居候が、我等總の啓迪の爲め、何日如何に書く可きか、導あらん事を祈り求め被下度候。

諸兄弟よ、さらば、尚此の諸貴手に落ちざる前愛する主と共に空中に遭ん事を望む。⁽¹⁰⁾

以上の書簡からわかることは、第1に、ニューマークは日本で23歳の時に救われて、ユダヤ人伝道の使命を与えられたこと、第2に、日本出国前にも若い宣教師40人、慶応大学塾生約50人に証詞をしていること、第3に、出横浜とサンフランシスコ間の船中でも救いの証詞を数百人の人に行っていること、第4に、滞在した米国においては、様々なキリスト教伝道団体で交流して証詞をしていること、である。

ニューマークは英国に帰国すると、最初は家族から「懇切なる歓迎」を受けたが、やがて「家族が互いに別れる事」になり、ニューマークは「非常なる試の下」に置かれ、「甚だしき迫害」の日々になった。だがそういう中でも「愛する主と共に空中に遭ん事」すなわちイエスの再臨を信じ続けていることがわかる。

日本で救われ、神による平安と喜びを会おう人々に証詞して伝え、日本で学んだ再臨信仰も英国に帰ってからでも継続されていたのである。

彼の祈りの課題は、①イスラエルの救い、②日本と米国の救い、③英国のユダヤ人と異邦人（非ユダヤ人）への証詞、④ロンドンの彼の家族の再結束、⑤自分が神の為にすべきことを知る事、⑥彼の全家族の信仰の決断、⑦世界

への伝道とリバイバル、⑧日本におけるイスラエルの為の祈祷の拡張、であった。

おわりに

以上の分析から、以下の3点が結論として挙げられる。

- 1 ユダヤ人ニューマークは、聖書全巻を読むことによって、ユダヤ人としての偏見が除かれて、神による救いを体験した。
- 2 神による平安と喜びを与えられたニューマークは、再臨運動やユダヤ人問題研究会だけでなく、帰国中のアメリカ旅行においても多くの人に神により救われた証詞をした。
- 3 内村鑑三は、ユダヤ人の救いとしての生きた実例として、ニューマークの証詞を重用し、それは再臨運動にとり大きな成果を生み出した。

今後の研究課題としては、ニューマークは英国において、その後、どのような人生を送ったかが、挙げられる。家族とは別れたままであったのか、ニューマークは牧師か伝道師、あるいは宣教師になったのか。

神によって救われた者はどのような生涯を送るのか、その事例研究としても貴重な研究になるであろう。

〔注〕

- (1) 大正時代の再臨運動については、拙著『内村鑑三と再臨運動』（新教出版社、2012年）を参照。具体的な資料としては『聖潔之友』と『聖書之研究』を使用した。『聖潔之友』は福音伝道館の機関紙であり、月2回の刊行であったが、1913年からは週刊となり、中田が主筆として社説を担当した。東洋宣教会の地方伝道は順調に進展し、全国に及ぶことが目標とされた。
- (2) 『内村鑑三全集』第33巻、岩波書店、1983年、59-60頁。
- (3) 『聖書之研究』223号（1919年2月10日）、6-9頁。
- (4) 同、46頁。
- (5) 『内村鑑三日記書簡集』教文館、1964年、60頁。

- (6) 『聖潔之友』 646号 (1919年 2 月18日), 4-5頁.
- (7) 『聖書之研究』 223号 (1919年 2 月10日), 66-67頁.
- (8) 『内村鑑三日記書簡集』, 192頁. 『聖書之研究』 234号 (1920年 1 月10日)
44-45頁.
- (9) 『内村鑑三日記書簡集』 193頁. 同, 46頁.
- (10) 『聖潔之友』 第687号 (1919年12月) 7-8頁.